TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

東北芸術工科大学
文化財保存修復研究センター

Tohoku University of Art and Design　Institute for Conservation of Cultural Property



文化財を守り、次世代へつなぐ。

物語を紡いでいく

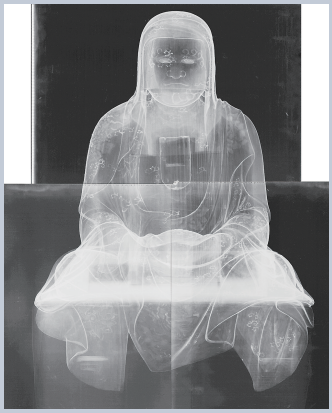
仏像などの古典彫刻には、制作された当初の記憶とともに
手から手へ大切に守り受け継がれ歩んできた
歴史の“物語”も内包されています。
われわれは、修復を通じて、
その“物語”を次の世代へ紡いでいきます。

「五百羅漢像」龍澤山善寶寺（山形県鶴岡市）









X線写真



BEFORE



AFTER





「東亜進軍」長沼孝三彫塑館（山形県長井市）

郷土で受け継がれた文化財

彫刻・立体作品は経年変化や損傷が一様ではなく、修復には複合的な知識と技術が必要になります。対象の情報を、目視による観察・赤外線などを使用した光学調査・保存科学部門と連携する機器を使用した科学的分析を通して、構造や材料を知り、理解し、考察を重ね、修復方法を決定していきます。







「五百羅漢像」龍澤山善寶寺（山形県鶴岡市）3D スキャナー計測



「一搭両尊像」鳳凰山要行寺（千葉県大網白里市）

古典彫刻修復部門
立体作品修復部門

仏像をはじめとした郷土に受け継がれる文化遺産から美術館・博物館に保管される近現代彫刻作品まで広く取り扱います。特に古典彫刻修復では鶴岡市・善寶寺をはじめ、各地の社寺で調査や修復を実施しています。

●担当研究員：笹岡直美（研究員・准教授）／宮本晶朗（研究員・准教授）／佐藤真依（常勤嘱託研究員）
●客員研究員：柿田喜則／山田修／井戸博章

伝統の継承と進化する東洋絵画の修復

「船絵馬」
春日神社（山形県鶴岡市）



BEFORE　AFTER



BEFORE　AFTER

掛軸や屏風、絵馬や襖といった形態を仕立てる技術は表具（ひょうぐ）や装潢（そうこう）と言われ、この技術により日本の絵画作品は何度も修復をされながら受け継がれてきました。長い間に作品は傷みます。波打ち、横折れが進み、本紙が切れてしまった掛軸。経年の劣化から本紙が裏打ち紙から浮き上がり、しわが入ってしまった作品など、あまりにも傷んだ作品は一度解体して、もう一度掛けることができるよう修復して作品を受け継ぐ手助けをします。





紙を知り、糊を知り、作品を守る

日本の絵画修理の技術に裏打ちがあります。糊を塗った和紙を対象の裏面に貼り補強するこの伝統技術は長く文化財を支えてきました。糊は小麦澱粉を煮ながら攪拌（かくはん）して作ります。撹拌の仕方や時間によっても糊の出来具合は変わります。大寒の頃に作る糊を長期間熟成させる「古糊」は掛軸修理には必須の材料です。この糊を使う紙は手漉きの和紙です。時に、本紙の繊維を分析して組成の近い和紙を用意し、あるいは薄くて丈夫な薄美濃紙を使い、裏打ちの技術を駆使します。古来の素材を知り、技術を練磨しながら文化財を伝えるお手伝いがしたいと考えています。





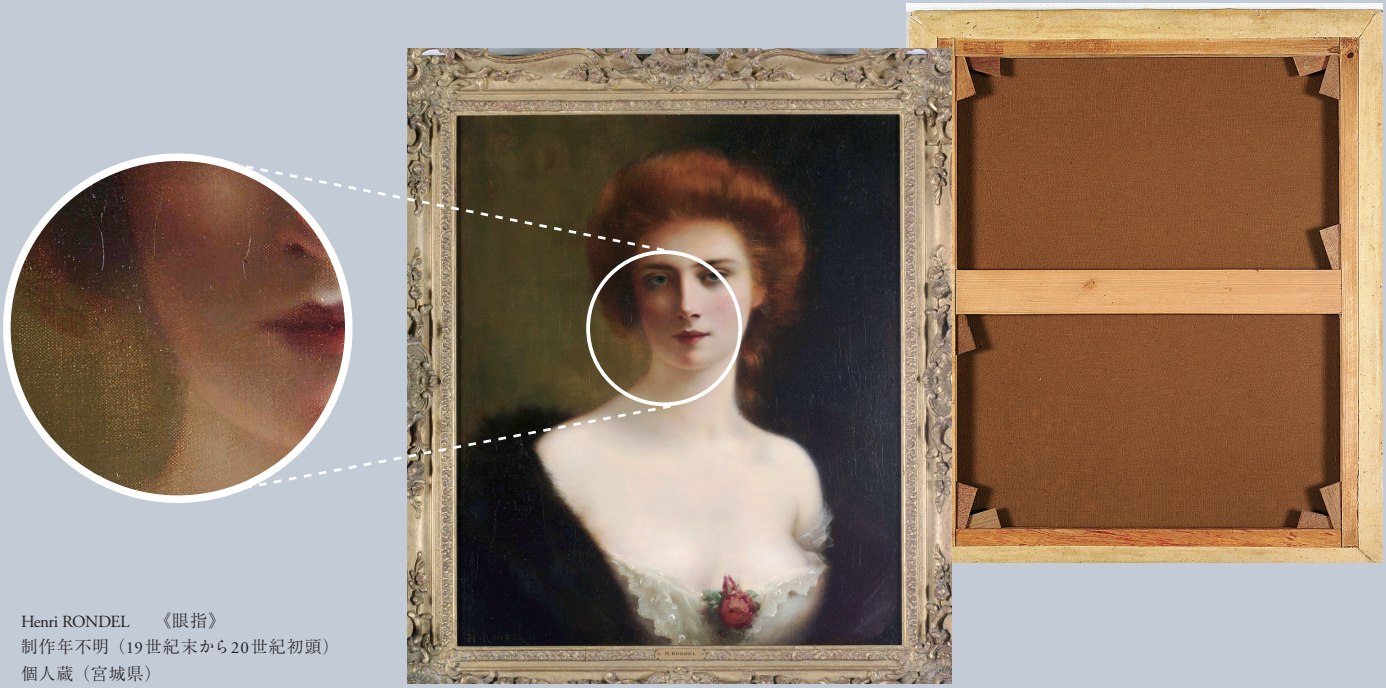
左：寒糊炊きの様子／右：古糊変遷

東洋絵画修復部門	美術館や博物館、資料館だけでなく、地域の中には傷んでいる作品も多く見られます。それらの保存継承をする手助けをしたいと考えます。対象は広く、掛軸、屏風襖絵だけでなく、古文書、典籍、古地図といった日本古来の表装形態の殆どを扱っています。 ●担当研究員：杉山恵助（研究員・教授）／元喜載（研究員・准教授）

西洋絵画をより良い状態で未来に引き継ぐ



BEFORE



AFTER

Henri RONDEL　《眼指》
制作年不明（19世紀末から20世紀初頭）
個人蔵（宮城県）

西洋絵画修復部門では主に油絵を取り扱っています。美術館や博物館等の公共の施設から個人の所蔵者まで幅広い層から相談を受け、作品を調査します。損傷している作品は依頼者と綿密に話し合った上で修復を行い、作品をより良い状態で後世へ継承していく方法を研究・実践しています。写真はおよそ100年前に制作されたと考えられるフランス人画家の手による油彩画です。作品の表裏に黴が発生し、さらにワニス層の黄変を含む変容により画像が見え難い状態にありました。黴の除去により保存上の安全性を回復し、複数層からなるワニスの上層部を除去し再塗布を実施することで、作品本来の色彩や図像を認識できるよう美観を回復させました。





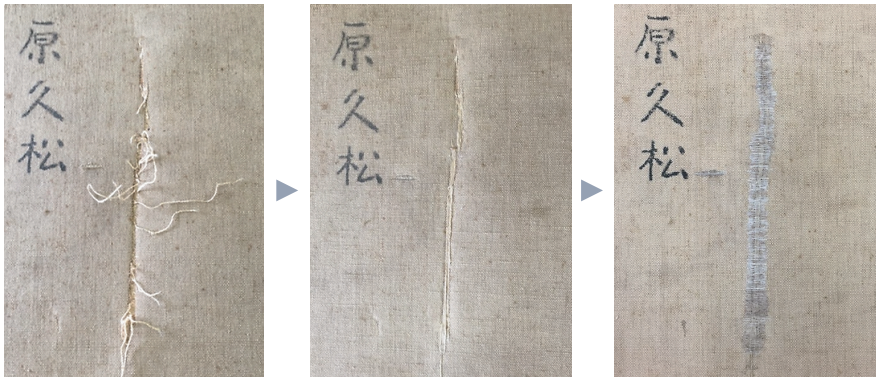
素材を知り、作品を知る

油絵は板や布を支持体として油絵具を幾重にも重ね、ワニスで仕上げた層構造で出来ています。この素材の異なる層の重なりが油絵の特徴であり、損傷にも大きな影響を与えます。西洋絵画の修復は素材や構造を理解することから始まります。目視での調査は勿論、紫外線や赤外線を用いた光学調査、保存科学部門と協力し最新の機器を使用した科学分析調査を行います。調査結果を考察した上で修復の方法を慎重に選び、作品がつくられた当初の姿を大切にしながら修復処置へ進みます。作品そのものには目立つような傷みがない場合でも、将来起こりうる劣化を視野に入れ、額の調整や保管環境の改善など予防的保存処置を提案しています。



赤外線写真を撮ることで下層にある下書きが見えることがあります。これも作品の修復・研究に大事な調査です。（左：通常光写真、中央：赤外線写真、右：紫外線写真）

作品の支持体破れを修復



処置前　経糸・緯糸を組み直す　かけはぎ補強後

西洋絵画修復部門

東北地方にゆかりある画家の作品をはじめ、国内外の近現代洋画の調査・修復を行っています。調査・修復を通した考察を深めることで、作品の来歴や画家の技法の特徴が判明する場合があります。得られた新たな知見は作品修復の一助とするだけでなく、研究発表などの形で公開し広く社会に貢献していきたいと考えています。

●担当研究員：中右恵理子（研究員・准教授）／米田奈美子（客員研究員）

歴史と考古学の研究





左：酒田市生石2遺跡の発掘調査（2024年）／右：土器の3次元計測

土地の記憶を未来につなぐ遺跡の保存と修理、そして活用

遺跡はその土地が歩んできた歴史を記憶する場所です。歴史・考古部門では自治体と連携し、北海道有珠モシリ遺跡や酒田市生石２遺跡などの発掘調査等を行い、地下にある遺跡の内容及び価値を明らかにしています。また、未公表の遺物を資料化する作業も行っており、収蔵庫に眠って今まで光が当てられてこなかった地域資源にも新たな息吹を与えています。出土した遺物の分析には、３次元計測を行うなど、デジタル技術を積極的に導入し、調査を行っています。また、出土した遺物の観察をもとに、土器や石器の製作実験なども行い、過去の人々の活動を復元する研究を進めています。
また、県内の指定文化財の現況調査なども行うことで、文化財の調査・保存・活用について自治体と協力・連携しながら、より良い方法の提案や開発を行っています。



1



2



3

1. 山形市文化財現況調査
2. 石器製作実験
3. 北海道伊達市有珠モシリ遺跡の発掘調査

歴史・考古研究部門	主に遺跡や文化的景観に関する調査研究を進めています。遺跡では保存目的（範囲確認、史跡整備）の発掘調査や地形測量を実施しています。また、地域文化財の総合把握として石造物等の有形文化財、伝統的な生業技術にみられる無形文化財や民俗文化財、町並み景観などを研究しています。自治体や住民と連携した活動を通して、文化財行政や地域作りにも貢献します。 ●担当研究員：北野博司（センター長・教授）／青野友哉（研究員・教授）／佐藤祐輔（研究員・准教授） ●客員研究員：吉村和久／添田雄二





最新科学と伝統技術の融合

左：X線CTによる仏像の構造調査／右：赤外線カメラによる墨書の判読

保存科学の取り組み

保存科学部門は、最新科学技術と伝統的修復技術との融合を目指し、多様な文化遺産に対して自然科学的視点で研究に取り組んでいます。科学的手法を用いた分析は現代の保存修復において必要不可欠です。当センターでは、X線CT撮影装置・X線回折装置・高精細デジタルマイクロスコープなどの最新機器を駆使し、様々な材質の文化財を対象とした調査・研究を進めています。また、減圧含浸処理装置・脱塩処理装置・エアブラシ装置など、金属製品・木製品を中心とする出土文化財の保存処理とその技術開発を推し進めています。

このように保存科学部門は各修復研究室が必要とする構造や材質、劣化の状態や要因、保存環境等について自然科学的な視点から調査研究を行っています。

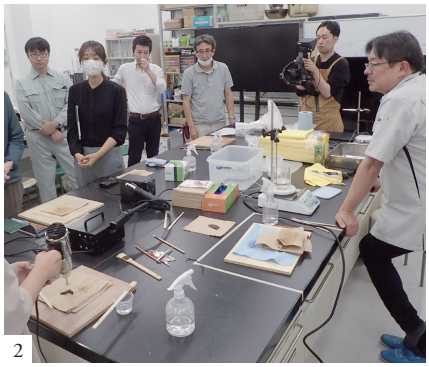


鉄錆試料の作成

保存科学部門	保存科学部門は各修復研究室が必要とする構造、材質、劣化の状態と要因、保存環境等に関する情報を自然科学的に調査分析し、修復部門を支援する役割を担っています。現在の保存修復では、科学的なデータで文化財の状態を診断することが重要視されています。保存科学研究室では、多様な文化財に対応する体制を整えています。 ●担当研究員：伊藤幸司（研究員・教授）／村上智見（研究員・准教授）／野場知聡（常勤嘱託研究員） ●客員研究員：石﨑武志／及川規／金原美奈子／河崎衣美／小林啓／中村力也／成瀬正和／村串まどか 安木由美／大和あすか

研究活動の公開


1


2


3

センターでは研究成果について、センター内外での展示、シンポジウム、公開講座、研究会、紀要の作成などによって発信しています。
文化財をとおした地域との連携、文化財を教育に活用することで生まれる文化理解、また観光資源として文化財を活用することで創出される経済効果など、総合的な文化財活用の在り方を模索した研究活動を目指しています。

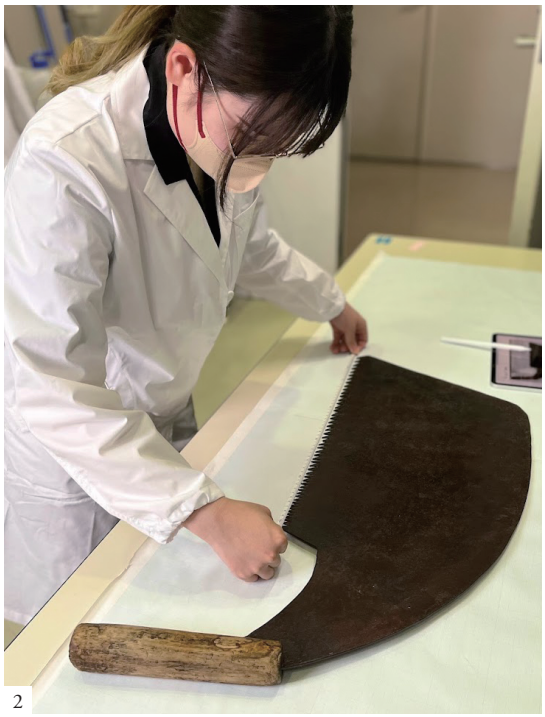
1.センター公開講座「世界から見た日本の修復―装潢修理技術とそのトレーニング―」オンライン配信（2024年）
2.専門技術講演会「トレハロース含浸処理法の実務2 －鉄製品への適用－」対面・リモート（2024年）
3.専門家会議「文化財活用におけるX線CT活用の実際 」対面（2024年）

災害で被災した文化財を修復し、地域の心を守り伝える

2011年の東日本大震災では津波により多くの文化財が被災し、その復興は現在も継続して行われています。当センターでは文化庁や各地の文化財防災ネットワークと連携した被災文化財の修復に取り組んできました。2022年には独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターと連携協定を結び、文化財防災・減災や、被災文化財の保存処置に関する調査研究を進めています。平時におけるこのような活動や研究こそが、突然襲い来る災害から文化財を守る際に活かされるはずです。当センターは東北における文化財保存修復の拠点として文化財防災・減災への取り組みを継続しています。

1.合成樹脂による防錆処置／ 2.保存処理前の資料調査


1


2

傷んだ作品の相談、保存修復の依頼受け付けております

当センターでは保存修復に関する相談を受け付けています。各専門分野の担当者が研究・修復に取り組む体制をとっており、科学的調査を行いながら、地域や環境に根差した文化財の保存継承の手助けとなるよう取り組んでいます。

令和６年受託実績一覧

山形県	
鶴岡市	善寶寺五百羅漢像保存修復業務
長井市	長沼孝三彫塑館蔵「東亜進軍」修復調査
寒河江市	長泉寺所蔵閻魔王像・木彫像一式修復調査業務
山形市	良向寺夫婦杉記録保存及び活用事業
米沢市	普門院蔵木造大日如来坐像 X 線 CT 画像撮影業務
山形市	X 線撮影による絵画の構造調査
山形市	山形市指定文化財現況調査業務
東根市	東根市所蔵作品保存修復業務
米沢市	大南遺跡出土木製品保存処理業務
米沢市	長福寺所蔵 池田月潭作「六歌仙」応急修理業務
青森県	
青森市	三内丸山遺跡大型掘立柱建物跡保存処理業務
岩手県	
陸前高田市	陸前高田市立博物館所蔵木材加工関連資料安定化処置及び修理事業
大船渡市	大船渡市熊野神社宮殿形厨子修復業務
盛岡市	もりおか歴史文化館所蔵「南部信直宛豊臣秀吉朱印状」本格解体修理業務
盛岡市	もりおか歴史文化館所蔵能面「白露」修復業務
盛岡市	もりおか歴史文化館所蔵「南部氏歴史画像」応急修理業務
花巻市	花巻市博物館所蔵花巻人形彩色調査研究業務
秋田県	
大仙市	秋田県成沢 2 遺跡出土木柱保存処理業務
宮城県	
大崎市	永澤才吉肖像画修復業務
福島県	
会津若松市	法國寺会津別院所蔵阿弥陀如来坐像応急修復
東京都	
新宿区	安達峰一郎記念財団所蔵作品【西洋絵画】保存修復業務
新宿区	安達峰一郎記念財団所蔵作品【東洋絵画】保存修復業務
千代田区	国立国会図書館所蔵図書応急修理
港区	X線撮影による絵画の構造調査
三重県	
亀山市	誓昌院阿弥陀如来坐像修復業務
大阪府	
富田林市	大阪府立狭山池博物館木製枠工及び堤体等保守点検業務

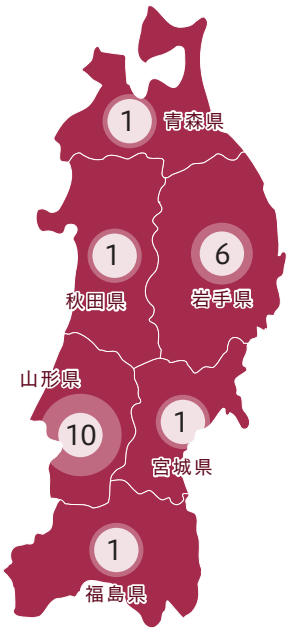
受託実績
都道府県

※平成24年～令和6年



令和６年
受託実績

※東北地方



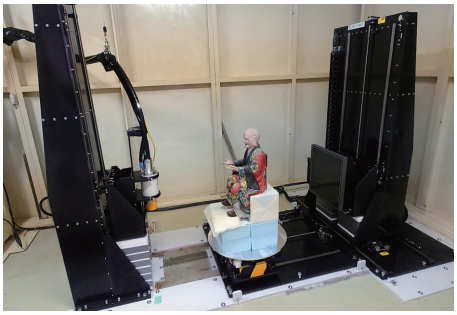
刊行物

定期刊行物としてセンター紀要（2011～）があります。地域文化遺産の価値の再評価と循環型保存活用システムの構築に取り組んだ研究事業報告書や、所有者の目線に立った文化遺産日常管理マニュアルなどを刊行しています。HP（http://www.iccp.jp）でも一部PDFでダウンロードすることができます。











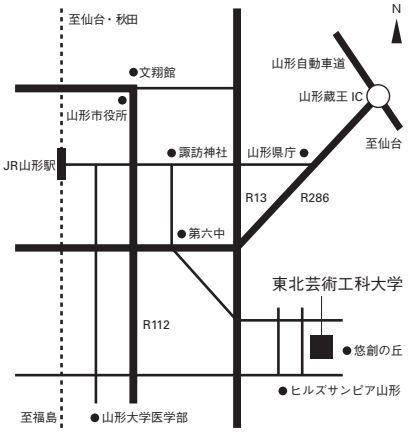


東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターは全国初の大学附属文化財保存修復研究センターとして、2001年4月に設立されました。地域の文化財を守り、伝える研究機関として、教育や研究にも多方面から取り組んでいます。

2001　東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター設立
2005　文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「地域文化遺産の循環型保存・活用システムに関する総合的研究」採択（2010年3月まで）
2010　文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「複合的保存修復活動による地域文化遺産の保存と地域文化力の向上システムの研究」採択（2015年3月まで）
2015　「寒冷地域における文化財の保存修復に関する研究」（2019年3月まで）
2019　「文化遺産の保存・活用に関する研究」

建物名称：文化財保存修復研究センター／建築規模：763.38㎡／延床面積：2,343.21㎡
最高高さ：18.95m／軒高さ：13.415m



令和７年度版

●修復のお問い合わせはこちら

東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター
〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5
TEL 023-627-2204　FAX 023-627-2303
E-mail iccp@aga.tuad.ac.jp　URL http://www.iccp.jp

